

身近な情報をお寄せください

企画調整課広報広聴係(☎373-2111)③333

「コロニー白岩の里で 白根絞りを指導

サークル
ふきのとう

コロニーにいがた白岩の里(寺泊町)では入所者の作業指導に役立てようと、絞り染めの研修会を開催しました。講師となったのは、白根絞りの伝承グループ「ふきのとう」の皆さん。研修会は二月十三日、同コロニーで行われ、県内各地から施設指導員ら三十人余りが参加しました。

ふきのとう代表の星野敦子さんは「入所者の作業指導に取り入れるという事で、だれでも簡単にできる絞り方をみんなで研究しました。割りばしや輪ゴムを利用すれば、針や糸で細かい作業をしなくても、いろいろな模様ができます」と研究のポイントを。研修会では四種類の技法を紹介しました。同コロニーでは、六年ほど前か



ら入所者の作業に絞りを取り入れていました。しかし一種類の絞り方しかできなかったため、作品も限られ、指導者を探していたもの。今回の研修については、同コロニーの丸山和子課長は「いろいろな技法を紹介していただき、入所者にも無理なくできることが分かりました。絞りには深みと広さがあり、研修会を企画してよかった」と話しています。

「これまでグループでは、白根絞りの掘り起こしと技術の伝承に力を入れてきましたが、今回は今までと違った視点で絞りを見直すことができました」と星野さん。コロニー入所者の製作品はジャスコ新潟店内にある「福祉の店パレット」で販売されています。ここに絞りの数々が並ぶのも、もうすぐかもしれません。

字が上手になるように

白根小
雪祭り

二月三日、白根小学校で雪祭りが行われ、さいの神や豆まきなどで楽しいひとときを過ごしました。

さいの神では運営委員の児童がいわれを紹介。さいの神の火で焼いたスルメを食べると病気をしないこと、習字を焼くと字が上手になることなどを全校児童に説明しました。各学年の代表が新年の抱負を発表した後、点火。勢いよく燃え上がる火に、子供たちは「熱い、熱い」と顔を背けながらもスルメや書き初めをかざします。歓声と青竹の弾ける音が校庭に響きわたり、間近な春の訪れを感じさせていました。



定着した真冬の芸術祭

茨曾根地
区公民館

茨曾根地区公民館では、芸術祭を二月九日から三日間、同公民館で開催しました。小学校の文化祭と一緒に開催していたこの催し。じっくりと見てもらおうと、行事の少ない二月に開催し、今年で三回目となります。芸術祭には工芸、絵画、書道、ペーパーフラワーなど五十一点が出品。日ごろの芸術活動や公民館事業で創作した作品が並びます。訪れた地区民は「あの人が作られたんネ」「いや、これは見事だ」と熱心に作品に見入ります。三日間で二百人を超える人が訪れ、真冬の芸術祭はすっかり定着しています。



春から強運続く青木さん

年賀はがき
一等当選

今年の年賀はがきの一等当選者は青木光秀さん(下赤波)。一月二十一日、白根郵便局で賞品(大型テレビ)の授与が行われ、父親の芳栄さんが代わって賞品を受け取りました。新田郵便局長によると白根から一等が出たのは、二十数年ぶりのこと。芳栄さんは「息子の中学時代の友達からの年賀状です。ちょうど衛星放送テレビを買おうかと思ってたところでした」とにこにこ顔。一月二日には、白根商店街の大売り出し抽選会で、特等のデイズニールランド旅行券も当たったという青木さん。何ともうらやましい話でした。



底辺拡大は子供から

小学生バレー
ボール教室

白根市バレーボール協会は小学五、六年生を対象にしたバレーボール教室を開いています。これは同協会が昨年十二月から取り組んでいるもの。週一回の練習には約五十人が参加しています。バレーボールは初めてという子供たちがほとんどで、サーブやパスなどの基礎練習が中心。二月二十三日に行われた銀行主催の小学生バレーボール大会には、白根市から初めて四チームが出場しました。春には新メンバーを募集する予定で、協会では「バレーボールの面白さを知ってくれば」と底辺の拡大に期待を寄せています。

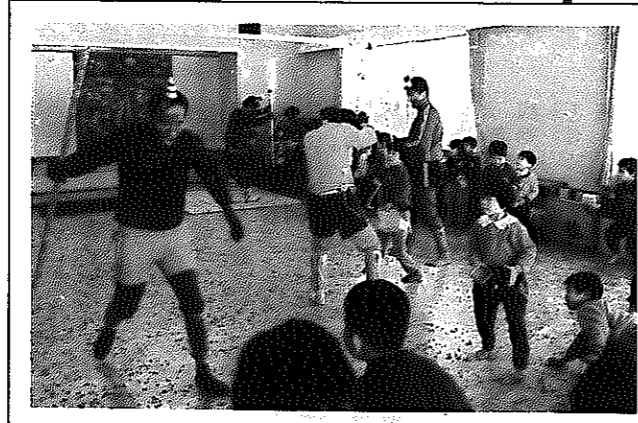


鬼退治たエイ、エイ、オー

小林保育園
豆まき

二月三日、市内の多くの保育園で節分の豆まきが行われました。

小林保育園では、連合青年団ふるする四匹の鬼が登場。「いじめっ子がいたら食べてしまおうぞ」「好き嫌いのする子がいたらさらっていくぞ」と氣勢を挙げます。園児たちは「そんな子はいないよ」と大きな声。「鬼をやっつけろ! エイ、エイ、オー」の掛け声で、一斉に鬼に向かって豆を投げつけます。鬼に捕まえられた友達を助けるなどスリル満点の格闘を演じました。鬼が退散した後には福の神が登場し、園児たちに幸福を招くお菓子を配っていました。



もっと親しまれる制度に

有志指導
者座談会

有志指導者派遣制度が発足して間もなく一年になりますが二月一日、青年教育センターで有志指導者の座談会が行われました。これは指導者の体験を制度充実の足掛かりにしようと、社会教育課が開いたもの。座談会では指導して良かった点や制度上改善してほしい点など、さまざまな体験談が。また市民の派遣依頼を待つのではなく、地区公民館などを活用して指導の場を設定し、学習希望者を募集したらどうかという意見も。社会教育課ではこれらを参考に、さらに市民から親しまれる有志指導者制度にしたいとしています。

